障害者の視点から医師を育てたい

佐賀大学医学部助教授
松尾清美さん

写真・文／小山博孝

松尾清美さん。佐賀市出身。宮崎大学工学部、九州芸術工科大学大学院卒業。障害者や高齢者の社会生活行動支援やテクノエイドの開発と評価など、佐賀大学医学部「地域医療科学教育研究センター・福祉健康科学部門」の専任助教授として、活躍が期待される。

「先生、大学病院にはたくさんの車いすが用意されていますが、古いものとか、調子のよくないものがかなりあるようです」

「それらを整備して、気持ちよく使ってもらったらどうだろうか」

「授業の合間をみて、皆でやろう」

「異議なし」

医学生たちとの会話が弾む佐賀大学医学部、松尾助教授の研究室。

松尾清美さん（四九歳）は、今春、脊髄損傷医療専門施設「総合せき損センター」（福岡県飯塚市伊岐須）の医用工学の主席研究員から、佐賀医科大学の助教授に転身して教鞭をとっている（十月一日より佐賀大学との統合により、佐賀大学医学部となる）。

松尾さんは佐賀市出身。地元の佐賀北高校から宮崎大学工学部機械工学科に進学し、エンジニアをめざしていた。大学三年の時、交通事故で脊髄を損傷し、下半身が不自由となり、車いすでの生活となってしまった。

佐賀大学医学部　〒849-8501　佐賀市鍋島5-1-1
TEL0952-34-2180（代）　FAX0952-34-2022

卒業後、一九七九年に開設された「総合せき損センター」に就職し、福祉機器等の開発と改良に従事するとともに、建築士の資格も取得し、住宅や公共・商業施設などのバリアフリー化への助言や研究にも力を入れてきた。

この間、福祉器具など一四件の特許を取り、日本リハビリテーション工学協会や日本建築学会などに約三〇〇本の研究論文を発表した。また、「障害者の楽しみや目標をつくりたい」と車いすテニスの普及にも努め、今年で一九回目となる「飯塚国際車いすテニス大会」の呼びかけ人となり、競技委員長を務めている。プレイヤーとしても、初回から十六年連続で出場した。

こうした松尾さんの論文や活動が高く評価され、佐賀大学の地域医療科学研究センター・福祉健康科学部門の専任助教授に迎えられた。

「治療が終わって、障害をかかえながら生活する患者に、医師としてなにができるのか。医学生自身が障害者から学んでほしい。幅広い見方のできる医師を育てたい」という松尾さんの活躍が始まった。

「障害者のことがわかる医師を育てたい」と佐賀大学で教鞭をとる齊場三十四教授。齊場教授も脳性まひにより松葉杖での生活を送っている

「松尾先生の役目は非常に大きい」と齊場教授はじめ、松尾さんにかける期待と評価は高い

障害者の立場や目線から、学生たちに話す松尾助教授

大学病院を訪れる患者の車いすでの行動を見守りながら、学生たちを指導する

バリアフリーをめざして、大学内外を自ら回り、研究を進める

研究室で学生たちと話す

大学病院内の車いすを学生たちと調査、点検する

大学職員から改造中の新しい実験室の
進行状況の説明を受ける

工事中の実験室を視察

大学で教鞭をとって10年になる先輩の齊場教授と打ち合わせ。齊場教授（右）も大学教授になる直前まで、各地の病院・施設で30年間、医療ソーシャルワーカーとして活動した経験をもつ。松尾さんのよき理解者だ

松尾さんのアイデアで生まれた車輪をはずすことができる移動可能な車いす。狭いトイレにも入ることができる

多くの特許や研究論文が並ぶ研究室

車軸でブレーキがかかる車いす

自分の研究室にもアイデアがいっぱい。
ドアノブが位置を変えてつけてある
（退室時に車いすでバックせずにすむ）

デスクも移動が簡単

校舎の改築の件で相談に訪れた佐賀市役所の職員に、バリアフリー化への助言をするなど、地域にも積極的に提言している